

関東学院大学 vs 東京学芸大学

4月27日(日)
11:30K.O.
東洋大G

連勝が3で止まった関学大と、2点差を跳ね返して3勝目を挙げた東学大との対戦。昨季は負け越している東学大が、関学大に今季初黒星をつけることはできるか。

関学大は前節、最下位の産能大との対戦だったが、なんと3点のリードを追い付かれ、産能大に初の勝点を献上してしまった。1試合平均3得点という攻撃の好調ぶりを見せつけ、後半開始直後に3点目を奪うまでは、まったく危なげのない試合展開かと思われた。しかし、58分にCKから1点を許すと64分にはPKを与えて2失点目。形勢が一変した後半は、ついにアディショナルタイムに同点とされてしまった。早い段階で3点差をつけ、ピッチ内でやや意識の相違が見られたようだ。「ファーストディフェンスと2列目の間が間延びしてしまった。隙があった。むしろひっくり返されなくてよかった」(石村大監督)。昇格を狙うには真価が問われる試合だ。

その東学大は前節、平国大に3-2で勝利し、苦しい試合をモノにして連敗は免れた。前半から、連敗脱出を目論む平国大の出足の早いディフェンスに苦しめられながら、粘り強く攻撃を仕掛けてチャンスをつかみつつあったが、後半にPKとカウンターから2点を献上。しかし、77分に退場者を出して引き気味となった相手を攻

め立て、88分からアディショナルタイムまでに3点を奪う劇的な逆転勝利を飾った。「相手が非常に頑張っていて我慢の時間が続いたが、ワイドにを使って相手をずらしていくことはできた」(檜山康監督)。ピッチ内での選手とボールの動きは非常に活発なだけに、ビハインドを背負う前に積極的なシュート姿勢を見せたいところ。

<3回警告>永井雄介(東学大)
<昨年の対戦>前期/関学大4-0東学大、後期/関学大1-1東学大

関学大		東学大	
4. 久保	5. 廣木	10. 佐々木	1. 須賀
8. 普光院	4. 脇本	18. 久保	1. 須賀
2. 吉田	9. 菅	9. 山田	14. 平田
9. 富樫	8. 菅	11. 五十嵐	16. 富澤
26. 大山	1. 須賀	23. 永井	
1. 井田			
10. 土館			
3. 原島	33. 萱沼		
11. 中村			
32. 木村			

JR 東日本カップ 2014 第 88 回 関東大学サッカーリーグ戦

if OFFICIAL MATCHDAY PROGRAM
Division2 2014-NO.5

編集：五味亜矢子 発行：(一財)関東大学サッカー連盟 協力：関東大学サッカーサポーターズクラブ



波乱の4節で連勝チームなくなる!

JR 東日本カップ 2014 第 88 回 関東大学サッカーリーグ戦・2部リーグは、第4節にして連勝チームがなくなり、6試合中3試合がドローと接戦が増えてきた。今季4試合目となり、どのチームも徐々にフィットし始めてきたようだ。まず、3連勝だった神大と関学大が、それぞれ青学大と2-2、産能大と3-3という引き分けに終わり、連勝チームがなくなった。産能大は関東リーグにおける初の勝点を獲得。そして、拓大が日体大に2-0で勝利し、今季初勝利を挙げた。唯一、4連敗となった平国大も東学大に2-3という惜敗だっただけに、下位スタートとなったチームの反乱が起き始めたと言える。また、東農大と日大は1-1で引き分け、東洋大

得点ランキング		アシストランキング	
4: 中村 瞬 (関学大)	3: 伊東 純也 (神大)	3: 桂 大晴 (日体大)	2: 長野 祐太 (神大)
3: 星 広太 (神大)	萱沼 優聖 (関学大)	大田 一輝 (関学大)	土館 賢人 (関学大)
2: 富樫 敬真 (関学大)	星子 直哉 (平国大)	普光院 誠 (関学大)	白石 智之 (法大)
1: 全 42名		斉藤 昂太 (東洋大)	上長 次郎 (産能大)

が法大に0-2で敗れて既に3敗と苦しんでいる。大きく動き始めたリーグ戦。今節からのゴールデンウィークの過密日程で、激しい順位争いが見られそうだ。

JR 東日本カップ 2014 第 88 回 関東大学サッカーリーグ戦 星取表

(第4節終了時)

順位	2部	神大	関学大	法大	東学大	日体大	日大	青学大	東農大	東洋大	拓大	産能大	平国大	勝数	負数	点数	得点	失点	得失差
1	神大		6/15	5/25	5/3	5/11	4/27	2△2	5/6	5/18	4○0	4○0	5○3	3	0	15	5	10	10
2	関学大	日体大G		5/17	4/27	5/25	5/5	5/10	2○1	5/2	2○0	3△3	5○0	3	0	12	4	8	10
3	法大	東洋大G	青学大G		6/14	4/26	5/11	2△2	1○0	2○0	3○0	5/3	5/6	3	0	8	2	6	10
4	東学大	保土ヶ谷	東洋大G	法大G		5/6	5/25	2○0	0●1	1○0	5/10	5/17	3○2	3	1	6	3	3	9
5	日体大	日体大G	BMWス	日体大G	ゼットエー		0△0	5/17	5/3	6/15	0●2	4○1	2○1	2	1	6	4	2	7
6	日大	三ツ沢陸上	ゼットエー	法大G	産能大G	0△0		1●2	1△1	1○0	5/2	6/14	5/18	1	1	2	3	3	5
7	青学大	2△2	保土ヶ谷	2△2	0●2	青学大G	2○1		6/14	5/25	4/26	5/6	5/3	1	1	2	6	7	-1
8	東農大	駒沢陸上	1●2	0●1	1○0	保土ヶ谷	1△1	法大G		5/11	5/18	4/26	5/24	1	2	1	3	4	-1
9	東洋大	たつのこ	横須賀	0●2	0●1	日体大G	0●1	東洋大G	日体大G		5/6	4○0	4/27	1	3	0	4	4	0
10	拓大	0●4	0●2	0●3	たつのこ	2○0	横須賀	日体大G	上柚木	千葉東総		5/25	6/14	1	3	0	2	9	-7
11	産能大	0●4	3△3	BMWス	ゼットエー	1●4	産能大G	ゼットエー	古河	0●4	産能大G		5/11	0	3	1	4	15	-11
12	平国大	3●5	0●5	千葉東総	2●3	1●2	上柚木	味スタ西	千葉東総	東洋大G	産能大G	法大G		0	4	0	6	15	-9

東洋大学 vs 平成国際大学

4月27日(日)
13:50K.O.
東洋大G

1勝3敗の東洋大と4敗の平国大という下位同士の対戦。平国大は今季未勝利だが、東洋大は4試合中3試合で無得点と、どちらもまだ波に乗り切れていない。内容はもちろんだが、勝点という結果が欲しい両チームだ。

予想外の低調なスタートとなってしまっている東洋大。第3節で4得点を奪って初勝利を飾ったものの、前節は法大に0-2の敗戦。課題となっている得点力も、記録上のシュートは2本に終わっている。攻守がめまぐるしく入れ替わる前半の試合展開は悪くはなかったが、やはりシュートに持ち込むシーンが少なく、69分に先制点を許すと流れを引き戻すことができなかった。古川毅監督も、「今のチーム状況で失点を取り返すのは難しい。ハーフタイムには後半も無失点でいこうと送り出したのだが…」と厳しい表情だった。守備も大崩れしているわけではないが、1失点で勝てない現状は厳しい。攻撃陣の奮起に期待したい。

対する平国大は前節、2点のリードを守り切れない悔しい敗戦を喫した。退場者を出してしまったとはいえ、アディショナルタイムを含む最後の6分間で3点を奪われての敗戦はショックなものだった。しかし、全体的に見れば、積極的な守備で相手の攻撃を封じ、少ない

がチャンスをきっちり決める平国大らしい試合内容であった。西川誠太監督も「前から積極的に出ていくことができていた。選手を攻めるところはない」と話したが、警告2枚での退場とPKの判定など運には見放された。「課題は1人少なくなって受けに回ってしまったこと」(西川監督)。悔しい敗戦の雪辱と、今後のリーグの流れに向けて、今節は重要なゲームだ。

<出場停止>鎌田秀平(平国大) / 3回警告:田口慎太郎(東洋大)
<昨年の対戦>リーグ戦での対戦はなし

東洋大		平国大	
24. 池田	11. 千葉	7. 柏俣	26. 小松崎
28. 仙頭	7. 柏俣	25. 猪瀬	
4. 郡司	10. 平石	9. 星子	21. 馬屋原
15. 小山	10. 堀越	3. 深井	6. 福嶋
1. 浅沼	11. 佐々木	29. 木曾	2. 増田
14. 小山			
5. 田口	7. 斉藤		
16. 石坂			

* 予想布陣は直近の試合を参考に作成しています *

体育会学生のための
リクナビ就職エージェント

成功も失敗も、自分が決める。

部活と就活にエールを送る! 体育会学生のための「リクナビ就職エージェント」

リクナビ 体育会




青山学院大学 vs 拓殖大学

4月26日(土)
11:30K.O.
日体大G

2試合連続引き分けの青学大と、ついに今季初勝利を手にした拓大との対戦。どちらもまだ満足な内容の試合ができていないが、浮上のきっかけをつかみたい。

青学大は前節、神大と2-2で引き分けた。2試合連続2-2の引き分けで、なかなか守備面の課題の克服に至っていない。2点ビハインドを86分、87分の得点で同点に持ち込み、首位チームの連勝を止めたという意味では貴重な勝点1だったが、1失点は試合開始直後のオウンゴールであり、また、最後の10分は完全に押し込み相手に退場者も出たため勝機も十分にあった。終盤に運動量が落ちず攻め切ったことは明るい材料だが、「やろうとしたことは90分できたが、前に推進力のある攻撃を仕掛けても、得点につながらなければ意味がない」(宮崎純一監督)。流れの中から得点につながることを目指すとともに、いかに失点を抑えられるかが課題。

一方の拓大は、前節で日体大に2-0と、今季初得点をマークするとともに初勝利を挙げた。これまで、なかなか相手ゴール前までボールを運べず無得点だっただけに、試合開始早々の1分、GKからのロングボールをFW西岡梧郎(4年)が先制点につなげたのが試合の流れを決めた。これで勢いづいた拓大は、29分にもFKにFW

西岡が合わせて追加点。ボランチの2人を中心に日体大のパス回しを断ち切り、2試合連続スタメンのGK佐川亮介(3年)の好守もあって無失点でしのいだ。「相手の攻撃の芽を早めに摘むことができ、それを90分全員で行えたのがよかった」(玉井朗監督)。一つ結果が出たが、前節のような積極的な試合運びができるか。

<3回警告>谷川貴也(拓大)

<昨年の対戦>前期/青学大1-0拓大、後期/青学大2-2拓大

青学大	拓大
6. 服部	2. 谷川
11. 恵	24. 多田
3. 御牧	6. 紙谷
8. 後藤	27. 森川
1. 高橋	11. 西岡
27. 角宮	21. 佐川
10. 関谷	20. 河野
14. 伊藤	31. 宗像
5. 京谷	5. 高橋
7. 荒木	16. 大森
2. 堤	25. 穂積

東京農業大学 vs 産業能率大学

4月26日(土)
11:30K.O.
古河

2連敗のあと、2試合連続で勝点を記録している東農大と、3連敗のあと前節で初めての勝点を得た産能大との対戦。少しずつチーム状態が上向いてきている両チームだけに、今節も勝点を積み上げたい。

東農大は前節、日大と対戦して1-1の引き分けに終わった。どちらも勝ち切れない試合内容ではあったが、前半に先制を許した東農大としては、82分にPKを得て追い付いたことは評価できるだろう。特に前半は、押されながらも粘り強く守備で対応し、後半の反撃につなげた。「粘り強く持ちこたえられたのはよかった。しかし、上に行くには少ないチャンスをモノにしなければ。初戦のような気持ちで、緊張感を持ちながらやっていきたい」(木村俊夫コーチ)。上位チーム相手でも、失点が多すぎないことは評価に値するが、今節の相手は初の勝点獲得で勢いに乗りたい産能大だけに、11位チームとはいえ油断はできない。粘り強く守りたい。

その産能大は前節、関学大と3-3で引き分け、記念すべき関東リーグ初勝点をゲットした。前半から、連勝で勢いに乗る関学大に攻め込まれ、46分までに3失点を喫したものの、58分にCKからDF楠元秀真(4年)のゴールで反撃ののろしを上げると、64分にPKで、そ

してアディショナルタイムには再びCKから得点し、3点のビハインドを追い付いた。「3失点で折れなかったのがよかった。1戦1戦課題を見つけて積み上げてきたものがやっと出たが、4試合かかってしまった。一喜一憂せず、今日の課題をまた次に生かしたい」(加藤望監督)。前半から、単発だが相手ゴール前に侵入する力を見せていた。失点は多くとも攻める姿勢を持ち続け、それが結果につながりつつあり、今後にも期待が持てる。

<昨年の対戦>リーグ戦での対戦はなし

東農大	産能大
3. 加藤	25. 渡辺
8. 佐々木	11. 青木
5. 櫻岡	4. 楠元
25. 金	36. 須永
1. 矢口	34. 越智
13. 岡庭	31. 安田
9. 相川	33. 浜下
6. 大関	3. 藤原
15. 小田原	6. 遠藤
11. 井上	17. 岡村
2. 中西	32. 上長

日本体育大学 vs 法政大学

4月26日(土)
13:50K.O.
日体大G

前節で今季初黒星を喫した日体大と、3勝目を挙げた法大との対戦。連勝スタートを切った両チームのその後の明暗が分かれているが、法大は無敗を守れるか。

日体大は前節、拓大に0-2で敗れ、今季初勝利を献上してしまっ。2連勝のあと2試合無得点で勝利がなく、悪い流れは早めに断ち切りたい。前節は、倉又寿雄監督が「1分も経たないうちにミスから失点し、相手にリズムを作らせてしまったのが敗因」と話したように、試合開始直後にロングボールから失点してしまったのがすべての流れを決めた。今季、得点も勝点もない相手だけでなく、悔やみ切れない敗戦だ。そこで相手を乗せない対応ができればよかったが、出足の良くなった相手の守備の前に攻撃の組み立てはままならず、29分にはFKを与えて追加点を喫した。「試合の入り方を確認したい。連敗するようでは1部に上がれないのでしっかりやりたい」(倉又監督)。得点感覚を取り戻したい。

対する法大は、2連勝のあと引き分けをはさみ、前節は東洋大に2-0で勝利した。無敗で3位につけており、現在のところ最少失点。前節は前半こそ一進一退の攻防で攻め込まれるシーンも目立ったものの、中盤の守備で主導権を握り、90分で被シュート2本に抑えた。

長山一也監督も「しっかり守備の陣形を作って対応できた」と、守備面を第一に評価。さらに、荒れたピッチに合わせたサッカーができた柔軟性も、一つの勝因に挙げた。攻撃面でも、サイドを有効に使った組み立てとシュートまで持ち込む積極性が持続しており、今季は安定した得点力が期待できそうだ。「今日のようなゲームを続けていけたらいい。さらに3点目を奪いに行くことも大事」(長山監督)。昨季1部チームと注目の対戦だ。

<昨年の対戦>リーグ戦での対戦はなし

日体大	法大
2. 高野	6. 星
16. 手塚	8. 三田
13. 増谷	10. 阿部
18. 川戸	9. 相馬
1. 伊藤	3. 宗近
10. 阿部	26. 伊藤
4. 桂	12. 袴田
29. ンドカ	25. 西室
7. 長谷川	10. 高橋
11. 小山	22. 田代
26. 福田	16. 青島
	2. 永戸

神奈川大学 vs 日本大学

4月27日(日)
11:30K.O.
三ツ沢陸上

前節は引き分けに終わった両チームの対戦。失点数はリーグ2位タイの日大が、無敗で首位、得点数リーグ1位の神大をどこまで抑えられるか。

その神大は前節、青学大と2-2で引き分け、開幕からの連勝は3でストップした。しかも、2点をリードしながら試合終了間際に同点に持ち込まれており、勝点2を逃した格好だ。今季の好調の要因である、高い位置でのボール奪取から素早い攻撃を仕掛け、オウンゴールではあったが試合開始2分で先制。しかし、「追加点も取れて良い雰囲気だったが、ファール絡みでリズムを乱してしまったのが残念」(松永道敬総監督)と言うように、DFとGKのルーズな連携から与えてしまったFKを直接決められ、相手を勢い付けてしまった。「前期から勝点にこだわっている。次は何としても勝ちたい」(松永監督)。水曜日に天皇杯神奈川県予選を戦っており疲れは心配だが、攻撃陣の好調は続いているようだ。

対する日大は前節、東農大と1-1で引き分けた。これで2試合連続の引き分けであり、開幕戦以来勝利がない。得点、失点ともに少ないが、少ない得点を何とか勝利につなげたいところ。試合内容は、大崩れがなく安定しているとも言えるが、東農大戦はシュート数もチャン

スも多かっただけに、「勝点1を取れたというより勝点2を逃した印象」と川津博一監督。初めて前半で先制点を奪ったが、残り10分を切った82分に同点弾を許した。次の課題は、いかに2点目を取るかということになりそうだ。しかし、今節の相手は好調の首位・神大。守備を徹底するとともに、シュートカウンターを警戒し、自陣での不要なボール扱いは避けたい。

<出場停止>杉山祐亮(神大)

<昨年の対戦>リーグ戦での対戦はなし

神大	日大
3. 高木	25. 大谷
11. 星	33. 山本
29. 南	22. 浅野
16. 武田	7. 廣田
1. 黒沢	13. 中野
14. 芦野	11. 齋藤
24. 鈴木	1. 谷
6. 前田	15. 山口
5. 杉山	2. 長谷川
10. 伊東	9. 宇都宮
7. 長野	6. 中村